

# 仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための実態調査報告（抜粋）

平成 26 年 1 月

仙台市健康福祉局保険高齢部高齢企画課・介護保険課



# 仙台市高齢者保健福祉計画策定のための 実態調査報告

## －調査項目ごとの集計結果－

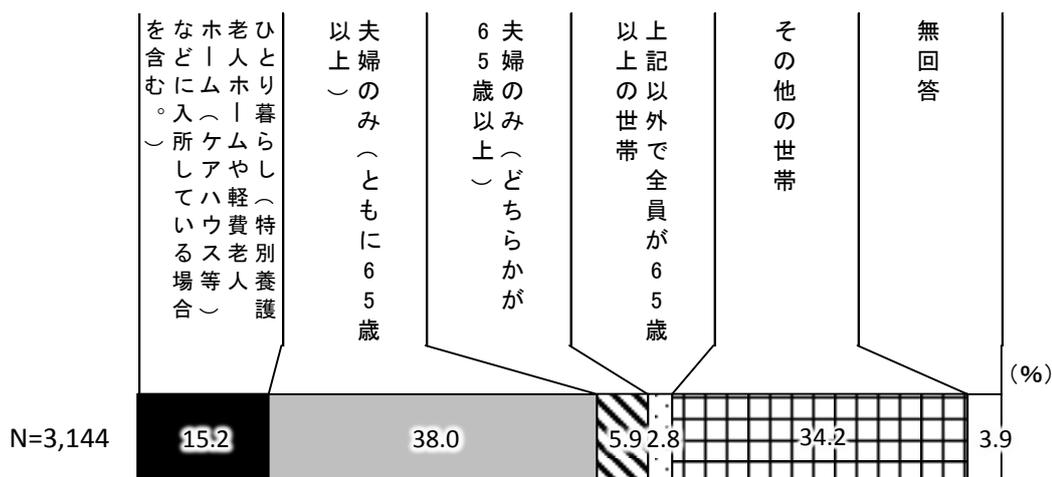
### < 調査項目 >

1. 調査対象者の属性
2. 健康状態について
3. 楽しさ・生きがいについて
4. 仕事について
5. 社会参加の状況と社会貢献について
6. 日常生活について
7. 外出について
8. 買い物について
9. 住宅、住み替え意向について
10. 本人・世帯の年間総収入について
11. 介護保険料について
12. 介護保険制度について
13. 地域包括支援センターについて
14. 高齢者福祉サービスについて
15. 介護予防について
16. 認知症対策について
17. 地域包括ケアシステムの構築について
18. 健康や福祉について
19. 高齢者虐待防止について
20. 孤立死について
21. 災害時の安否確認について

## (1) 世帯の状況

問5 世帯の状況は、次のどれですか。(あてはまるもの1つに○)

○世帯の状況は、「夫婦のみ（ともに65歳以上）」が38.0%を占めて最も多く、次に「その他の世帯」が34.2%で続いている。なお、65歳以上のみの高齢世帯は56.0%で、前回調査（平成22年度）より1.1ポイント高くなっている。

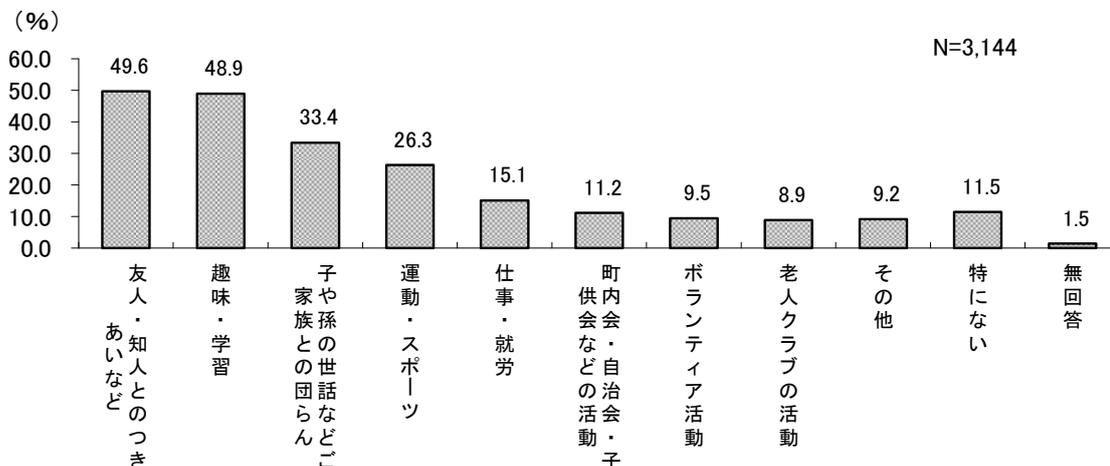


## (2) 楽しさや生きがいを感じること

問8 現在の生活の中で、どのようなことに楽しさや生きがいを感じていますか。

(あてはまるものすべてに○)

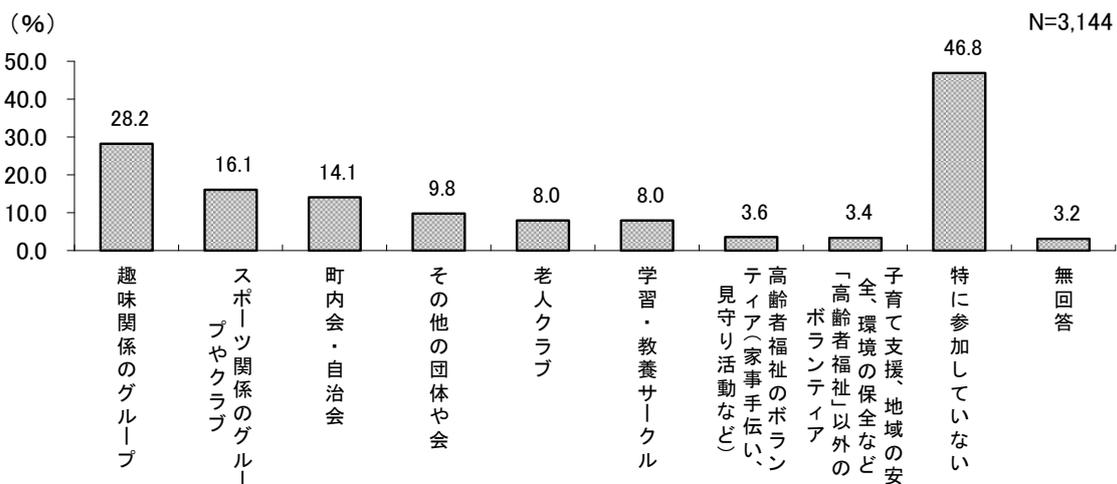
○楽しさや生きがいを感じることは、「友人・知人とのつきあいなど」(49.6%)、「趣味・学習」(48.9%)の両者が多く、次に「子や孫の世話などご家族との団らん」(33.4%)が続いている。また、11.5%の方が「特にない」と回答しているが、前回調査（平成22年度）より1.6ポイント低くなっている。なお、前回調査では、「趣味・学習」が46.6%と最も多く、「友人・知人とのつきあいなど」が46.4%と2位であったが、今回調査では両者の順位が入れ替わった。



### (3) 社会参加の状況

問11 社会参加についておたずねします。次のような会・グループ等に月1回以上参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

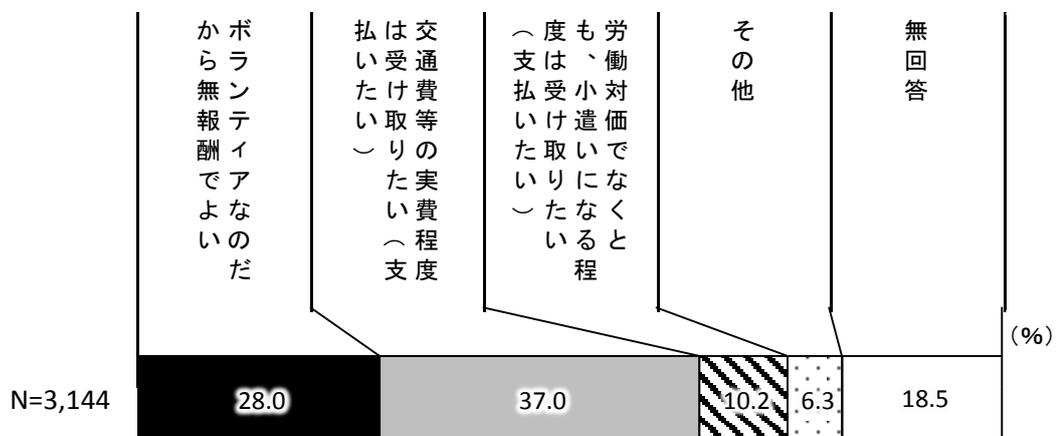
○社会参加の状況は、「特に参加していない」が46.8%と圧倒的に多く、参加しているものうち回答割合が高かったのは、「趣味関係のグループ」(28.2%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(16.1%)、「町内会・自治会」(14.1%) などである。



### (4) ボランティアの報酬についての考え方

問12 ボランティアの報酬について、どのように考えますか。(あてはまるもの1つに○)

○ボランティアの報酬は、「交通費等の実費程度は受け取りたい(支払いたい)」が37.0%を占めて最も多く、次に「ボランティアなのだから無報酬でよい」が28.0%で続いている。

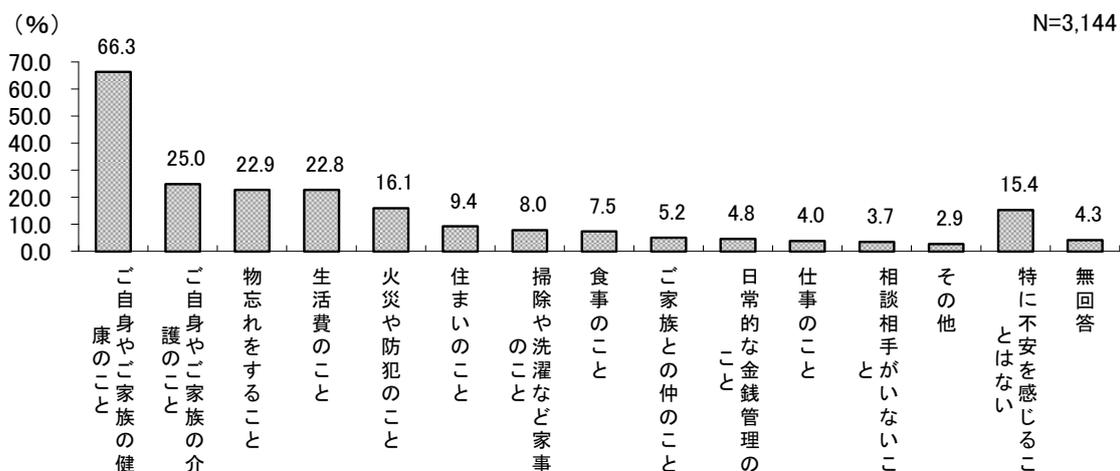


### (5) 日常生活に対する不安

問 16 毎日の生活に不安を感じていることは、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

○日常生活に対する不安は、「ご自身やご家族の健康のこと」が 66.3%と圧倒的に多く、次に「ご自身やご家族の介護のこと」(25.0%)、「物忘れをすること」(22.9%)、「生活費のこと」(22.8%)が 2 割以上で続いている。なお、前回調査(平成 22 年度)では「生活費のこと」が 33.6%で 2 位であったが、今回調査では 4 位となっている。

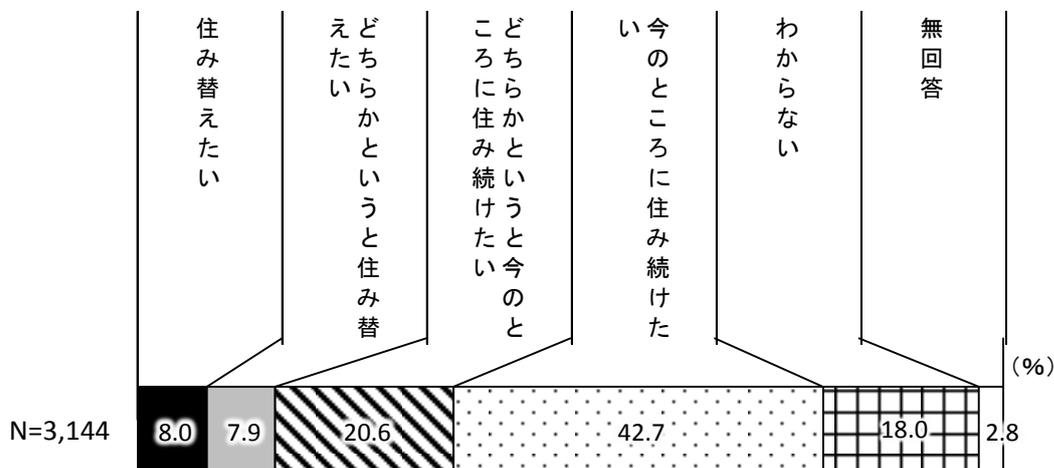


### (6) 介護が必要になった際の住み替えの意向

問 27 介護が必要になったら今お住まいの所からの住み替えを希望しますか。

(あてはまるもの1つに○)

○介護になった場合の住み替えの意向は、「今のところに住み続けたい」(42.7%)が最も多く、次に「どちらかという今に今に住み続けたい」(20.6%)が続き、両回答を合わせた『住み続けたい』が 63.3%と 6 割以上を占める。なお、「今のところに住み続けたい」は前回調査(平成 22 年度)より 3.5 ポイント低くなっており、「わからない」(18.0%)は前回調査より 3.6 ポイント高くなっている。

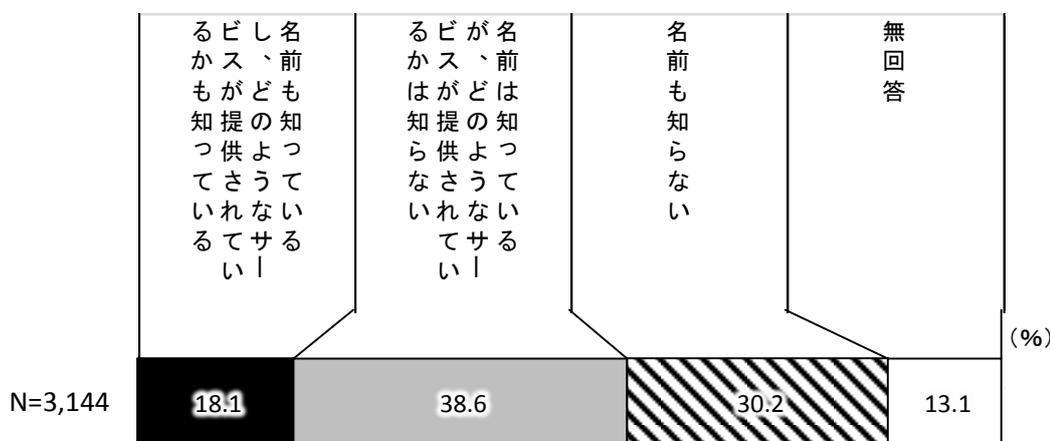


### (7) 地域包括支援センターの認知状況

問 40 地域住民の保健医療の向上や、福祉の増進を支援する施設として、市内に 49 か所の地域包括支援センターがあります。地域包括支援センターについて知っていますか。

(あてはまるもの1つに○)

○地域包括支援センターの認知度は、「名前は知っているが、どのようなサービスが提供されているかは知らない」(38.6%)と「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」(18.1%)を合わせた『知っている』が56.7%と5割以上を占める。なお、『知っている』は前回調査(平成22年度)より6.4ポイント高くなっており、一方、「名前も知らない」(30.2%)は前回調査より10.9ポイント低くなっている。

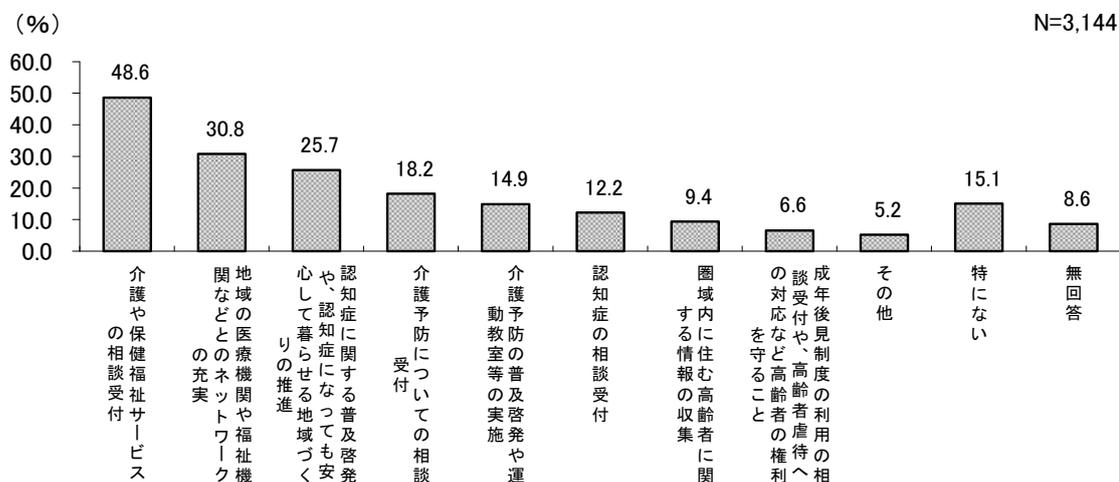


### (8) 地域包括支援センターに今後期待すること

問 42 地域包括支援センターに今後どのようなことを期待しますか。

(主なもの3つまでに○)

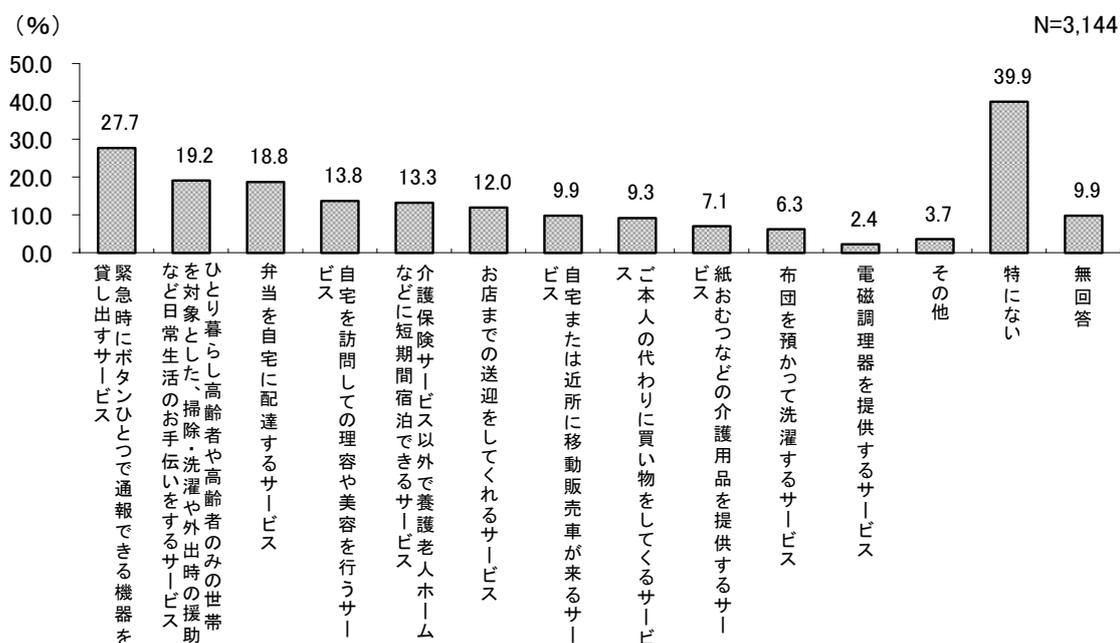
○地域包括支援センターに今後期待することは、「介護や保健福祉サービスの相談受付」(48.6%)が最も多く、次に「地域の医療機関や福祉機関などのネットワークの充実」(30.8%)、「認知症に関する普及啓発や、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの推進」(25.7%)が続いている。



### (9) 今後利用したいサービス

問 44 日常生活の不便さを解消するために、今後利用してみたい（引き続き利用したい）と思うサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

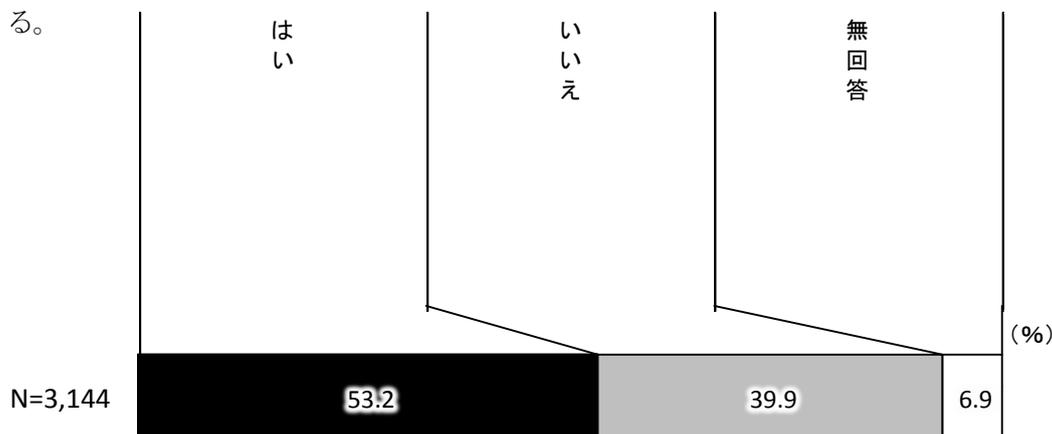
○今後利用してみたいサービスは、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」(27.7%) が特に多く、次に「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス」(19.2%)、「弁当を自宅に配達するサービス」(18.8%)が続いている。また、「特にない」(39.9%)との回答が約4割ある。



### (10) 介護予防についての取組み状況

問 48 介護予防について、何か取り組んでいることはありますか。（あてはまるもの1つに○）

○介護予防に関する取組みについては、取り組んでいる人が53.2%と5割以上を占め、取り組んでいない人が39.9%と約4割であり、前回調査（平成22年度）と、ほぼ同様の結果となっている。

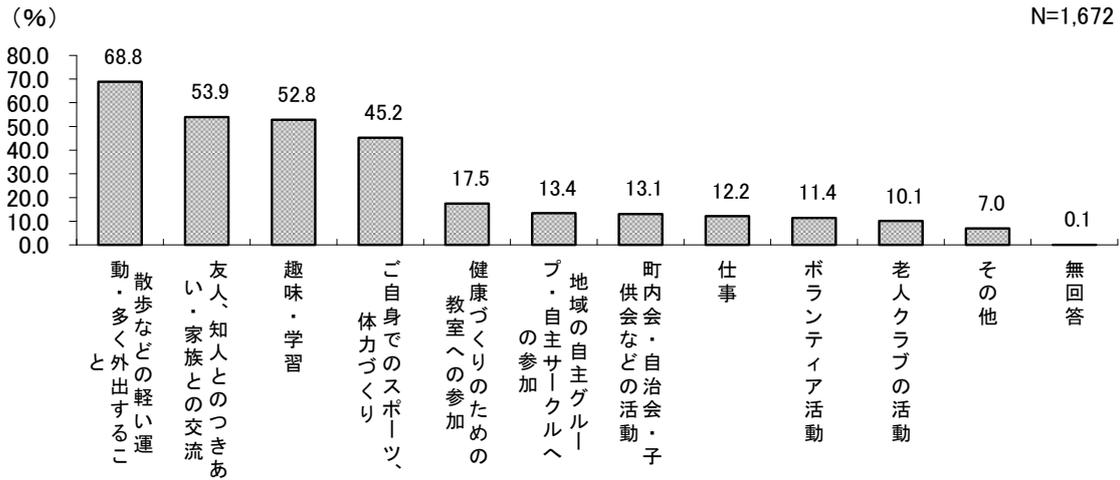


(11) 介護予防のために取り組んでいること

【問48で「はい」と回答した方におたずねします。】

問49 介護予防として今取り組んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

○介護予防として今取り組んでいることは、「散歩などの軽い運動・多く外出すること」(68.8%)が最も多く、次に「友人、知人とのつきあい・家族との交流」(53.9%)、「趣味・学習」(52.8%)が続いている。

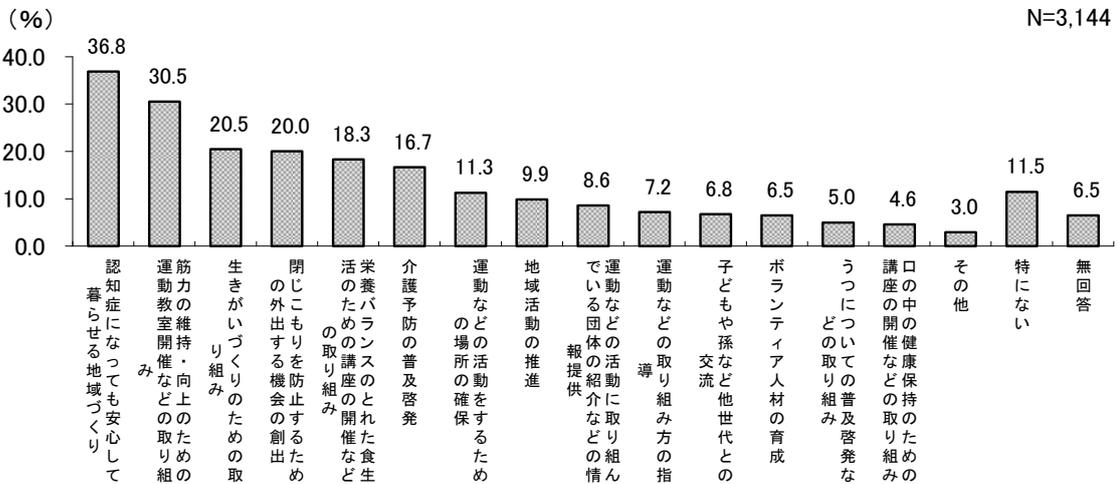


(12) 介護予防として仙台市に力を入れて欲しいこと

問51 いつまでも自立していきいきと生活するには、介護予防に取り組むことが重要となります。今後仙台市に力を入れて欲しい取り組みは、次のうちどれですか。

(あてはまるもの3つまでに○)

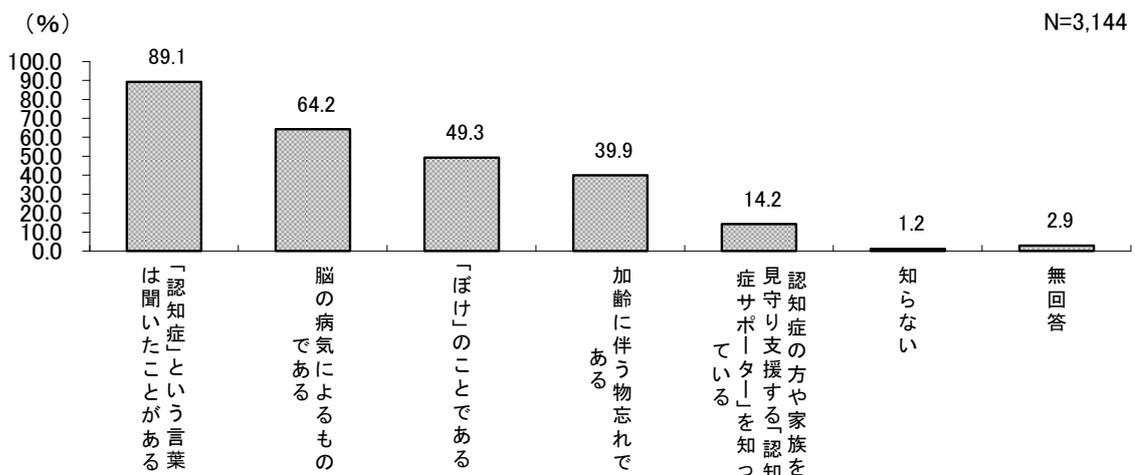
○介護予防として仙台市に力を入れて欲しいことは、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」(36.8%)が最も多く、次に、「筋力の維持・向上のための運動教室開催などの取り組み」(30.5%)、「生きがいをづくりのための取り組み」(20.5%)が続いている。



### (13) 認知症について知っていること

問 53 認知症について知っていることをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

○認知症についての認知度は、「認知症」という言葉は聞いたことがある」が89.1%と9割を超えて最も多く、次に「脳の病気によるものである」(64.2%)、「「ぼけ」のことである」(49.3%)が続いている。また、「認知症の方や家族を見守り支援する「認知症サポーター」を知っている」と回答した人は14.2%である。

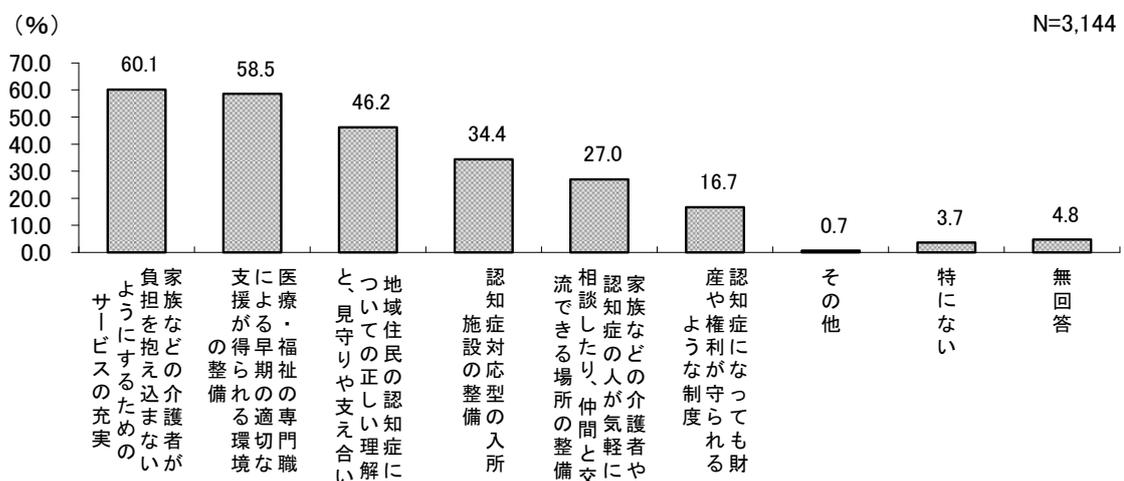


### (14) 認知症になっても安心して生活するために必要なこと

問 54 認知症になっても安心して生活するには、どのようなことが必要と考えますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

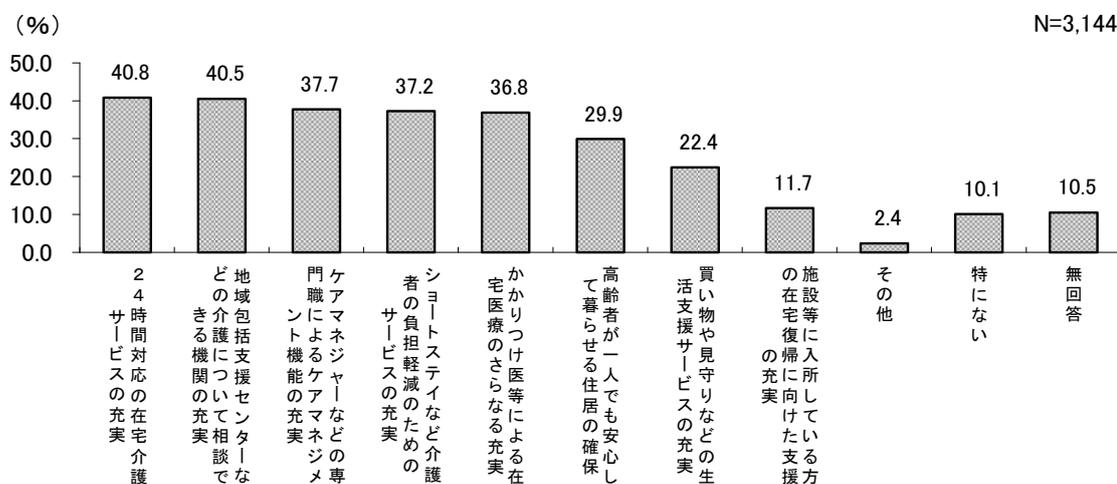
○認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「家族などの介護者が負担を抱え込まないようにするためのサービスの充実」が60.1%、「医療・福祉の専門職による早期の適切な支援が得られる環境の整備」が58.5%と、これら2つの理由が特に多い。次に「地域住民の認知症についての正しい理解と、見守りや支え合い」(46.2%)、「認知症対応型の入所施設の整備」(34.4%)が続いている。



(15) 地域包括ケアシステムの構築のために必要なこと

問 55 現在、国や仙台市では、要介護状態になってもできるだけ在宅（住み慣れた地域）で暮らしていくことができる社会（地域包括ケアシステムの構築）を目指して施策を進めています。今後、高齢者の増加に伴い、要介護者も増えていく中で、本人の希望に沿いながら、できるだけ在宅で暮らしていけるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

○要介護状態になってもできるだけ在宅で暮らしていくことができる社会（地域包括ケアシステムの構築）を目指すために必要なことは、「24時間対応の在宅介護サービスの充実」（40.8%）が最も多く、次に「地域包括支援センターなどの介護について相談できる機関の充実」（40.5%）、「ケアマネジャーなどの専門職によるケアマネジメント機能の充実」（37.7%）が続いている。



# 仙台市介護保険事業計画策定のための 実態調査報告

## －調査項目ごとの集計結果－

### < 調査項目 >

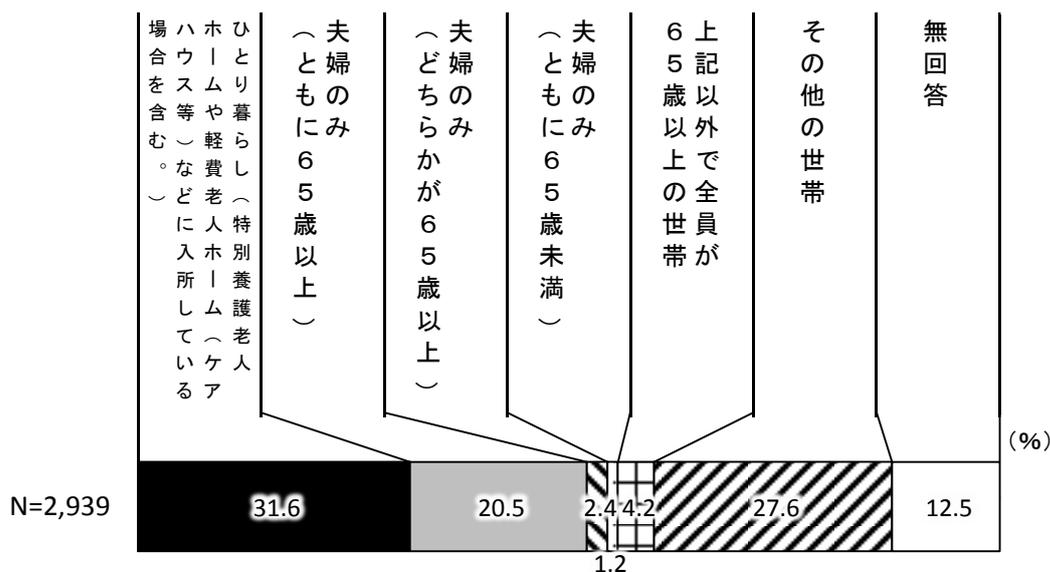
- 1 調査対象者の属性
- 2 在宅サービスの利用状況と満足度について
- 3 在宅サービスの利用者負担額と利用限度額について
- 4 お泊りデイサービスについて
- 5 在宅サービスの今後の利用意向について
- 6 在宅サービスを利用していない方について
- 7 介護保険以外のサービスの利用状況と今後の利用意向について
- 8 今後介護を受けたい場所と施設への入所申し込み状況について
- 9 施設入所者の状況について
- 10 介護サービスに不満があった場合の対応について
- 11 介護サービスの利用者負担について
- 12 介護保険料について
- 13 地域包括ケアシステムの構築について
- 14 認知症対策について
- 15 仙台市の介護保険について
- 16 安否確認について
- 17 災害時要援護者情報登録制度について
- 18 介護者について

(1) 世帯の状況

対象者全員

問4 世帯の状況は次のどれですか。(あてはまるもの1つに○)

○世帯の状況は、「ひとり暮らし（特別養護老人ホームや軽費老人ホーム（ケアハウス等）などに入所している場合を含む。）」が31.6%で最も多く、次いで「その他の世帯」（27.6%）となっている。なお、65歳以上のみの世帯の割合は56.3%となっている。

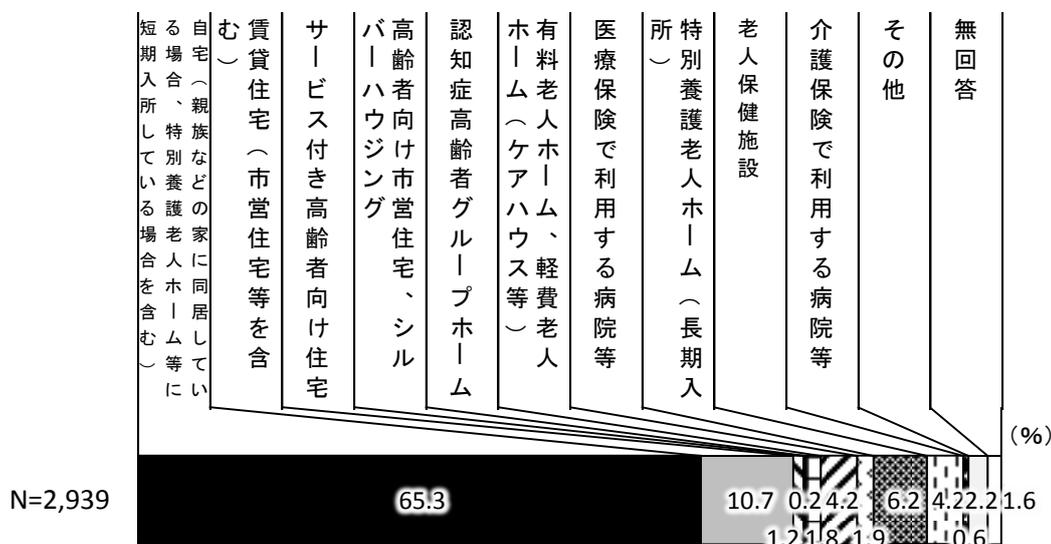


(2) 現在の生活場所

対象者全員

問11 ご本人は、現在どこで生活していますか。(あてはまるもの1つに○)

○現在の生活場所は、「自宅（親族などの家に同居している場合、特別養護老人ホーム等に短期入所している場合を含む）」(65.3%) が全体の約3分の2を占めている。

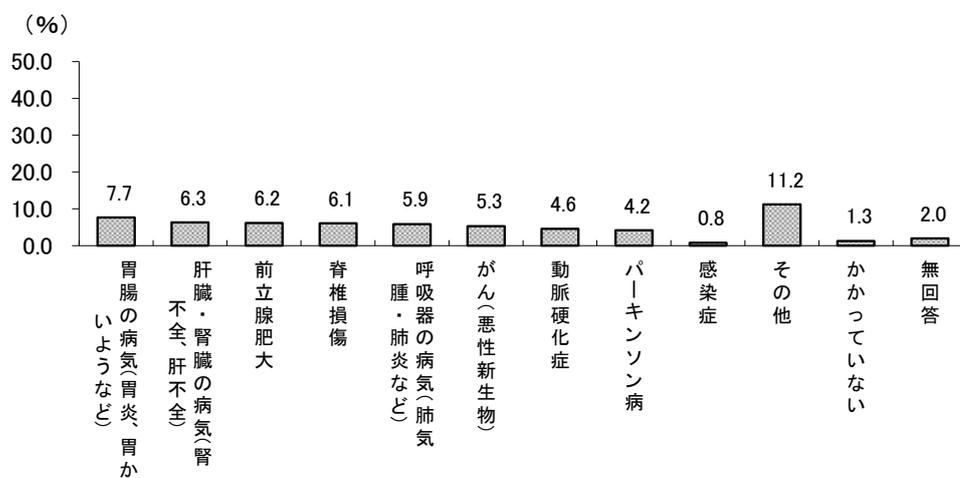
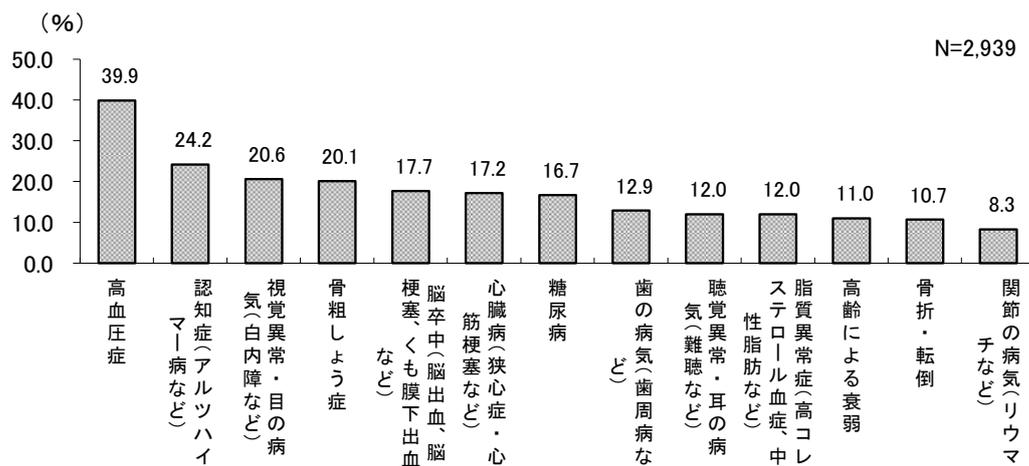


(3) 傷病の状況【複数回答】

対象者全員

問7 現在、次のような何らかの傷病にかかっていますか。(あてはまるものすべてに○)

○傷病の状況は、「高血圧症」が 39.9%で最も多く、以下「認知症（アルツハイマー病など）」（24.2%）、「視覚異常・目の病気（白内障など）」（20.6%）、「骨粗しょう症」（20.1%）と続いている。



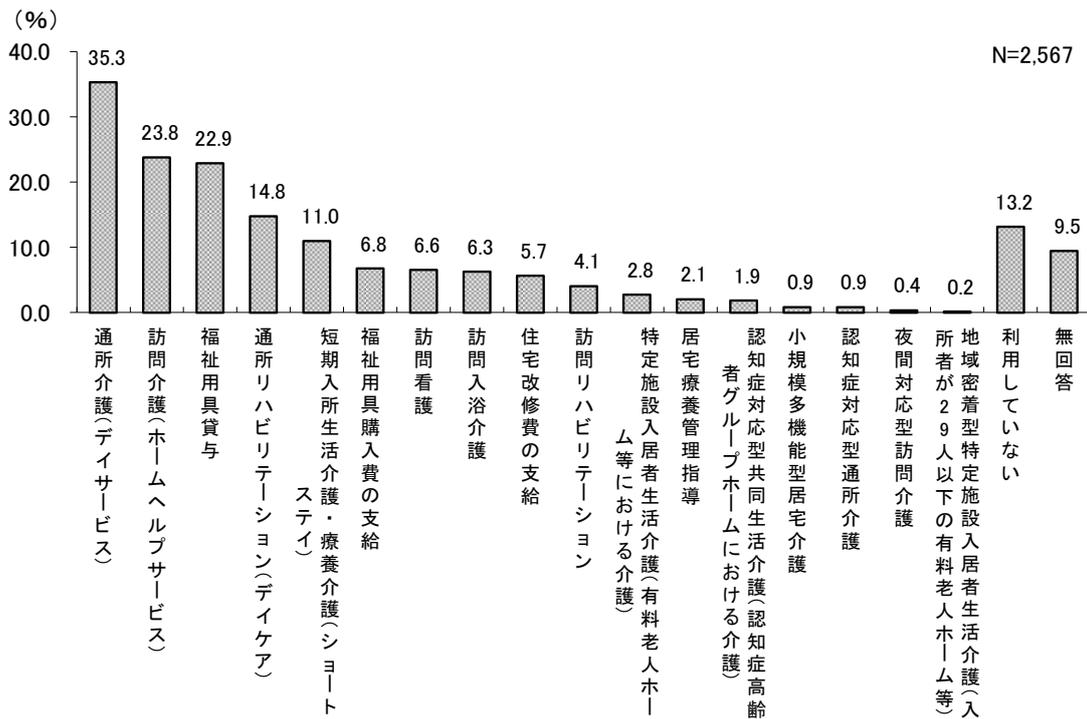
(4) 現在利用している在宅サービスの種類【複数回答】

在宅者等

【問11で「自宅」「賃貸住宅」「サービス付き高齢者向け住宅」「高齢者向け市営住宅、シルバーハウジング」「認知症高齢者グループホーム」「有料老人ホーム、軽費老人ホーム」「医療保険で利用する病院等」等と回答した方のみ回答】

問12 現在、介護保険のどの在宅サービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

○現在利用している在宅サービスの種類は、「通所介護(デイサービス)」が35.3%で最も多く、次いで「訪問介護(ホームヘルプサービス)」(23.8%)、「福祉用具貸与」(22.9%)となっている。一方、「利用していない」人は13.2%である。

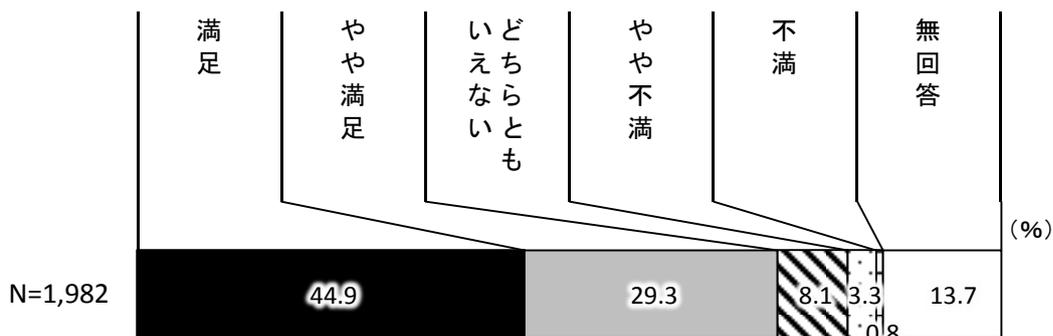


(5) 在宅サービスの質や内容に対する満足度

在宅サービス利用者

問17 現在利用している在宅サービスの質や内容に満足していますか。(あてはまるもの1つに○)

○現在利用している在宅サービスの質や内容に対する満足度は、「満足」(44.9%)、「やや満足」(29.3%)を合わせると、《満足》が全体の約4分の3を占めている。一方、「不満」(8.1%)、「やや不満」(3.3%)を合わせると、《不満》が5%未満となっている。



## (6) お泊りデイサービスの利用の有無

在宅サービス利用者

問 24 いわゆる「お泊りデイサービス」(以下「お泊りデイ」)について伺います。

(1) お泊りデイをどの程度利用していますか。(あてはまるもの1つに〇)

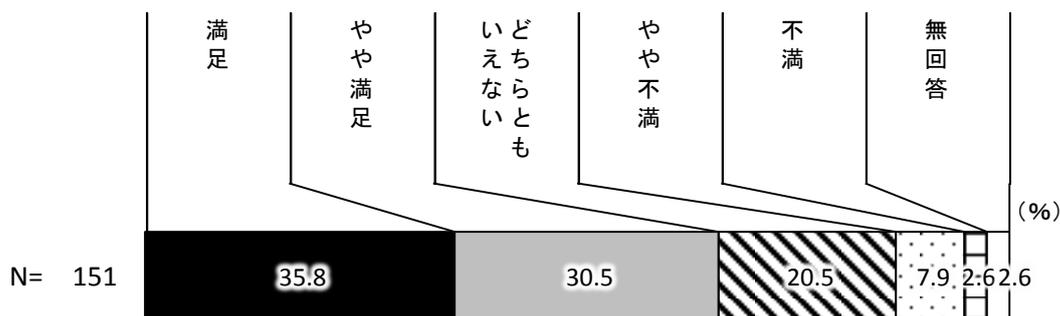
○お泊りデイサービスの利用の有無は、「利用していない」が74.1%、「利用している」が7.6%となっている。



## (7) お泊りデイサービスの内容に対する満足度

問 24(4) お泊りデイのサービス内容に満足していますか。(あてはまるもの1つに〇)

○お泊りデイサービスの内容に対する満足度は、「満足」(35.8%)、「やや満足」(30.5%)を合わせると、《満足》が全体の約3分の2を占めている。一方、「不満」(2.6%)、「やや不満」(7.9%)を合わせると、《不満》が約1割となっている。



※「お泊りデイサービス」とは、通い慣れたデイサービスの設備やスタッフにより、保険外でショートステイなどのサービスを行うもの。

ただし、介護保険外のサービスのため行政の規制等はなく、また費用は全額自己負担となる。

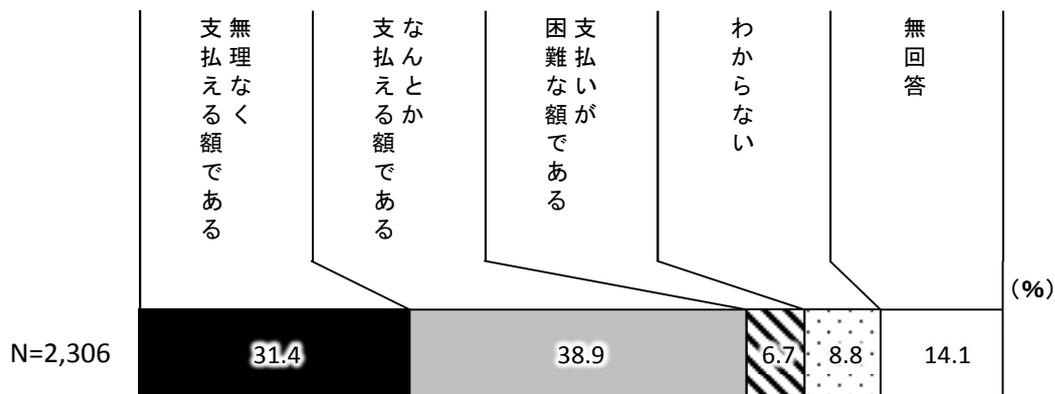
(8) 利用者負担の負担感

介護サービス利用者

問 44 介護サービスを利用する際に支払っている利用者負担額（1割負担分に食費・居住費（滞在費）を加えたもの）について、ご本人はどのように感じていますか。

(あてはまるもの1つに〇)

○利用者負担の負担感は、「なんとか支払える額である」(38.9%)が最も多く、「無理なく支払える額である」(31.4%)を合わせると、全体の約7割を占めている一方、「支払いが困難な額である」が6.7%となっている。

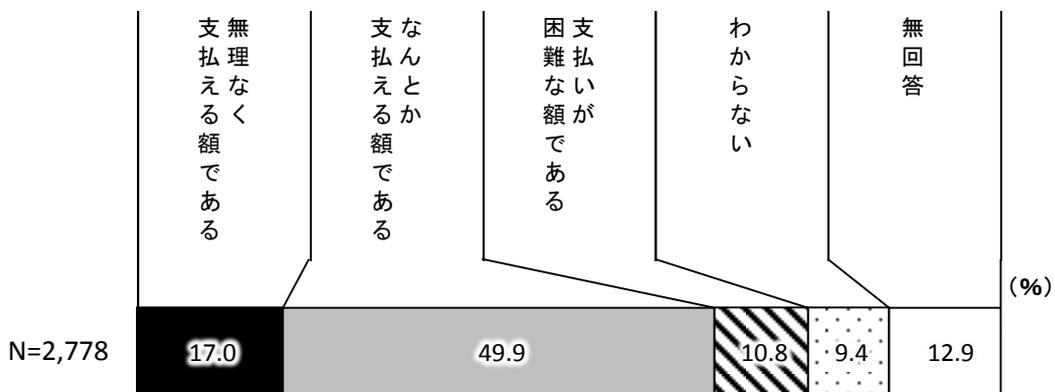


(9) 介護保険料の負担感

65歳以上全員

問 46 現在の保険料額を、どのように感じていますか。(あてはまるもの1つに〇)

○保険料の負担感は、「なんとか支払える額である」(49.9%)が約半数となっており、「無理なく支払える額である」(17.0%)を合わせると、全体の約3分の2を占めている一方、「支払いが困難な額である」が10.8%となっている。

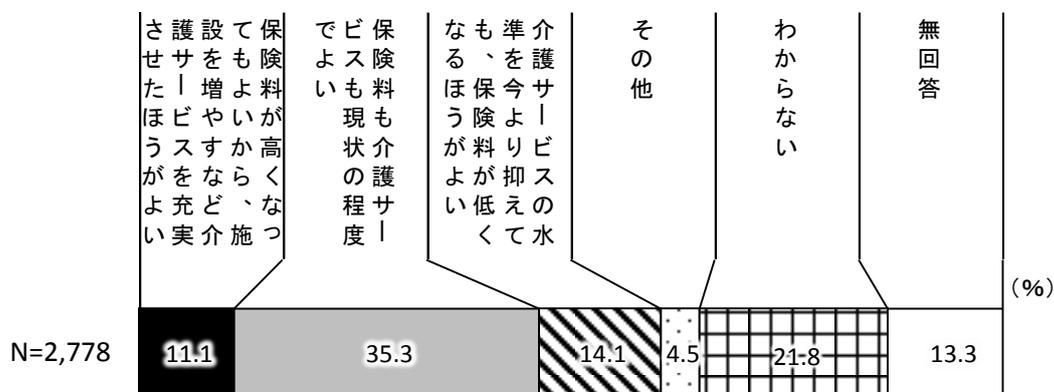


(10) 保険料と介護サービスのあり方

65歳以上全員

問 48 介護保険料の基準額は、介護サービスの利用量によって決まります。よって、施設が増えたり、介護サービスが充実するなどして利用量が増えると、保険料も増加することになります。このことを踏まえ、保険料と介護サービスのあり方について、ご本人の考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(あてはまるもの1つに○)

○保険料と介護サービスのあり方については、「保険料もサービスも現状の程度でよい」が35.3%で最も多く、次いで「わからない」(21.8%)、「介護サービスの水準を今より抑えても、保険料が低くなるほうがよい」(14.1%)、「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」(11.1%)となっている。

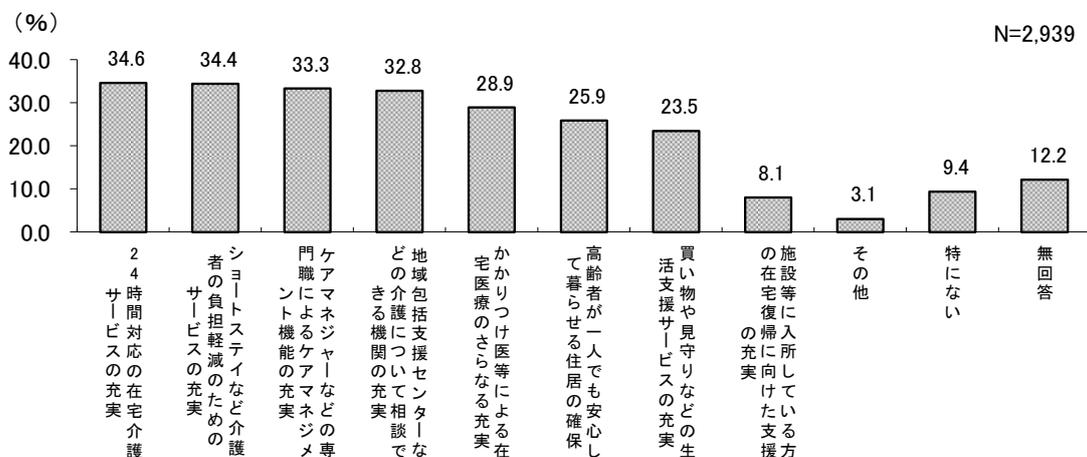


(11) 地域包括ケアシステムの構築のために必要なこと【複数回答】

対象者全員

問50 現在、国や仙台市では、要介護状態になってもできるだけ在宅（住み慣れた地域）で暮らしていくことができる社会（地域包括ケアシステムの構築）を目指して施策を進めています。今後、高齢者の増加に伴い、要介護者も増えていく中で、本人の希望に沿いながら、できるだけ在宅で暮らしていけるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

○地域包括ケアシステムの構築のために必要なことは、「24 時間対応の在宅介護サービスの充実」(34.6%) が最も多く、次いで「ショートステイなど介護者の負担軽減のためのサービスの充実」(34.4%)、「ケアマネジャーなどの専門職によるケアマネジメント機能の充実」(33.3%) となっている。



(12) 認知症になっても安心して生活するために必要なこと【複数回答】

対象者全員

問51 認知症になっても安心して生活するには、どのようなことが必要と考えますか。  
(あてはまるもの3つに○)

○認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「家族などの介護者が負担を抱え込まないようにするためのサービスの充実」(60.4%) が最も多く、次いで「医療・福祉の専門職による早期の適切な支援が得られる環境の整備」(44.1%)、「認知症対応型の入所施設の整備」(37.8%) となっている。

